

1 年 2 組 国語科学習指導案

場 所 1 年 2 組教室

1 単元名 のりものずかんを つくろう

2 教材名 じどう車くらべ

3 単元のねらい

【関心・意欲・態度】

- ・図鑑作りに向けて、教材文や好きな乗り物の図鑑・絵本を進んで読もうとしている。また、好きな乗り物の説明文を進んで書こうとしている。

【読むこと】

- ・単元を貫く視点「どんな仕事をしているか」と「そのためにどんな作りになっているか」を意識し、3つの車の仕事と作りの関係を読み取ることができる。
- ・絵本や図鑑から、乗り物の仕事と作りに関する記述を書き抜くことができる。

【書くこと】

- ・好きな乗り物の仕事について説明する一文を、「そのために」で接続させ、仕事に関連する作りについて説明する文を一文以上で書くことができる。

4 単元における主な言語活動 小学校学習指導要領解説 国語編 p 38 より

「書くこと」の言語活動例のウ 身近な事物を簡単に説明する文章などを書く言語活動
説明する文章を書く言語活動である。

説明する「身近な事物」としては、例えば生活科をはじめとした各教科等の学習はもちろん、学校生活や家庭生活において、児童が慣れ親しんでいる事物が考えられる。ここでの活動は、それらの事物の特徴に沿って、説明する順序を考えながら、形状や様子、動きなどを簡単に文章に書くことである。

5 本単元のねらいに関わる学年の児童の実態

(1)関心・意欲・態度（○：できている □：課題である）

○自動車や電車など、いろいろな乗り物に対する関心をもっている子が多い。

○大半の児童は絵本の読み聞かせを好み、進んで図書室に行く子が多い。

(2)読むこと（○：できている □：課題である）

○1学期の単元「といかけてこたえよう」で、説明的文章の文章構成や「～です。」「～ます。」という文末表現を学び、挿絵や文章から、内容の大体を読み取った。

□読む本に偏りがあり、自然や事物の仕組みなどを説明した文章にふれた経験は乏しい。

□文章中から、根拠となる表現を見つけることのできる児童はまだ少ない。

(3)書くこと（○：できている □：課題である）

○主語と述語の簡単な文作りができる。助詞「は・を・へ」の使い方を意識して、文が書けるようになった。また、簡単な視写をすることができる。

□一部、鏡文字を書いたり、拗音や助詞等の表記を誤ったりする児童がいる。

6 研究テーマに関わって

(1)学習のユニバーサルデザイン化

・「聴覚よりも視覚が得意」という1年生の発達段階を踏まえ、①～④の視覚的支援をする。

①車などの乗り物の拡大写真・絵の活用

・自動車やいろいろな乗り物の挿絵や写真を拡大して、活用する。

②説明文の基本文型の掲示・色分け

・「～は、～のしごとをしています。そのために、～います。」等の基本文型を掲示する。

・「仕事はピンク色・つくりは水色」など、基本文型を色分けして、短冊で示す。

- ③黒板と児童の手元を対応させるためのワークシートの拡大版の掲示
 - ・ワークシートの拡大版を黒板に掲示し、黒板と児童の手元を対応させて学びやすくする。
- ④乗り物の作りのよさを理解させるための模型の活用
 - ・乗り物の模型や半具体物を用意し、操作させることで、乗り物の作りのよさを体験的に理解させる。

(2)協同的に学び合う学習集団の育成

- ①ペア交流の位置付け
 - ・発達段階を踏まえ、低学年ではグループ交流ではなく、ペア交流を行うことにした。ペアで交流することで、自分の考えをもち、自分の読み取りや作文が正しいかを確かめる。
- ②ペア交流の仕方の指導
 - ・向き合う姿勢、相手の目を見る、口形に注意して発音する等、対話の基本を徹底する。

(3)言語活動の充実を目指した単元指導計画の在り方

- ①指導事項及び言語活動を系統的・発展的に配置した年間指導計画（年間）
 - ・1学期は、読みの視点を表す「大事な言葉」を視写して内容を読み取り、簡単な説明的文を書いた。本単元は、単元を貫く読みの視点に沿って「大事な文」を視写して内容を読み取り、説明文を書く。3学期はさらに発展し、説明文をより詳しく長く書けるようにする。
- ②第3次を中心とした言語活動の充実（各単元）
 - ・第3次で自分の好きな乗り物の図鑑を作るため、第1次で単元の見通しをもち、第2次で読みの視点に沿った文章の読み取り方や、文型、文末表現、文章構成等を学ぶ。
- ③習得・活用のリサイクルを生み出す系統的、発展的な単元構成（各単元）
 - ・第2次では「よみとりカード」を使って、視写を繰り返すことで、「説明文の構造や文末表現の習得」を目指す。徐々に視写の量を増やし、習得・活用のサイクルを生み出したい。
 - ・第3次の説明文作りでは、説明文の書き方を学ばせるため、ワークシートを段階的に用意し、活用する。まず、「みつけたよカード」（取材カード）に、写真や資料から、仕事と作りを書き抜く。次に下書きカードで下書きし、清書カードに説明文を書く。
 - ・1年生では、毎時間の授業をパターン化させることで、学びやすさが増す。そこで、2次の読み取りから3次の作文まで、学習過程をパターン化させた。「挿絵読み→仕事と作りの読み取り→しつもんタイムによる内容確認→めあての振り返り」のパターンである。

(4)協同的な学び合いを通して、読みや表現を深める授業の在り方

- ①児童が見通しと自分の願いをもち、学習を振り返る場の設定
 - ・終末の振り返りでは、ワークシートに三段階で評価を書く。振り返りの項目数は、3項目に絞り、評価しやすくした。また、全体で挙手させて、学びの実感をもたせようとした。
- ②言語活動の充実を目指した工夫改善 ～「しつもんタイム」の位置付け～
 - ・本時は、「クレーン車の作りと仕事に関する表現を本文から抜き出し、クレーン車の役割や各部の様子や働きを読み取る時間」である。工夫改善の手立ては、「しつもんタイム」の位置付けである。「『よみとりカード』に必要な表現を入れて適切に書いているか」を確かめるため、展開部において、ペアで交互に質問をする場を位置付けた。「しつもんタイム」を位置付けることで、「対話及び音声化による内容の確かめ」が可能となる。
- ③協同的な学び合いを生み出す指導・援助の工夫
 - ・「しつもんタイム」の後、全体で代表ペアが発表する場を位置付けた。こうすることで、モデルの姿から学習内容を確認し、友達から表現のよさを学ぶ機会とする。

(5)他の活動との関連

- ①「乗り物図鑑展覧会」の実施
 - ・乗り物図鑑を教室の後ろに展示し、全校児童に放送で呼びかけて、自由に見てもらう。
- ②生活科での作品紹介における基本文型の活用
 - ・生活科の「あきのものであそぼう」の単元で、秋の物で作った作品を紹介するときに、本単元で習得した基本文型を活用して、話すようにする。

7 単元指導計画（全14時間）

時間	主な学習活動	指導・援助
1	①本時の課題を確認する。 「のりものずかん」の つくりかたを しろう。 ②教師の説明を聞き、単元の目標と計画を理解する。 ③仕事と作りという単元全体の読みの視点を知る。	①導入で、乗り物のビデオを見せ、乗り物に対する興味をもたせる。 ②導入時から教室に「のりものの本コーナー」を設置し、並行読書を促す。 ③昨年度に児童が作った自動車図鑑を見せ、イメージをもたせる。
2	①本時の課題を確認する。 バスとじょうよう車の「しごと」と「つくり」をよみとり、カードをつくらう。 ②本文の仕事と作りを確認し、プリントに視写する。 ③ペアで質問を出し合って本時の学習を確かめる。	①教科書の挿絵を拡大した物を掲示する。バスと乗用車の挿絵を見て気づいたことを話し合う。 ②児童と同じプリントを拡大した物を黒板に掲示し、教師が共に視写する。 ③質問の話形内容を掲示する。
3	①本時の課題を確認する。 トラックの「しごと」と「つくり」をよみとり、カードをつくらう。 ②本文の仕事と作りを確認し、プリントに視写する。 ③ペアで質問を出し合って本時の学習を確かめる。	①教科書の挿絵を拡大した物を掲示する。トラックの挿絵を見て気づいたことを話し合う。 ②児童と同じプリントを拡大した物を黒板に掲示し、教師が共に視写する。 ③質問の話形内容を掲示する。
4 本 時	①本時の課題を確認する。 クレーン車の「しごと」と「つくり」をよみとり、カードをつくらう。 ②本文の仕事と作りを確認し、プリントに視写する。 ③ペアで質問を出し合って本時の学習を確かめる。	①教科書の挿絵を拡大した物を掲示する。クレーン車の挿絵を見て気づいたことを話し合う。 ②児童と同じプリントを拡大した物を黒板に掲示し、教師が共に視写する。 ③質問の話形内容を掲示する。
5	①本時の課題を確認する。 ずかんにのせたい のりものを きめよう。 ②図鑑に書きたい乗り物の名前をカードに書く。	②に際して、学級文庫や図書室で乗り物の本を読む時間を確保する。 ②書きたい乗り物名や見つけた本、よいと思う作り等を簡単に書くカードを用意する。
6 ・ 7 ・ 8	①本時の課題を確認する。 はしご車の「しごと」と「つくり」を しらべ、はしご車の せつめいぶんを かこう。 ②仕事と作りを「みつけたよカード」に書き出す。 ③下書きカードをもとに、清書カードを書く。	①黒板に掲示したはしご車の挿絵を見て、気づいたことを話し合う。 ②「みつけたよカード」（取材カード）の拡大版を黒板に掲示し、教師が児童と共に仕事と作りを書き込む。 ③清書カードの拡大版を黒板に掲示し、教師が児童と共にモデル文を書く。
9	①本時の課題を確認する。 すきなりものの「しごと」と「つくり」を しらべよう。 ②仕事と作りを「みつけたよカード」に書き出す。	①各自の乗り物の資料を用意する。 ②「みつけたよカード」（取材カード）を用意する。書き出せない児童には、個別に支援をする。
10	①本時の課題を確認する。 すきなりものの「しごと」と「つくり」を かこう。 ②「みつけたよカード」をもとに、下書きカードを書く。	①各自の乗り物の挿絵や写真を掲示する。 ②下書きカードを用意する。書けない児童には、例文を用意する。
11 ・ 12	①本時の課題を確認する。 すきなりものの せつめいぶんを かこう。 ②「みつけたよカード」や下書きカードをもとに、説明文を書く。 ③さらにもう一つ、好きな乗り物の説明文を書く。	②「みつけたよカード」、下書きカードを使って、最終的に作文用紙形式の清書カードに書けるようにする。 ②作文用紙の書き方や、仕事と作りを「そのために」でつなぐ等の指導をする。 ②書けない児童には例文を用意する。
13 ・ 14	①本時の課題を確認する。 「のりものずかん」を かんせいさせ、みんなのずかんの よいところを みつけよう。 ②図鑑を完成させ、グループ交流でよさを伝え合う。	②表紙、目次、後書きの用紙を用意し、書き方を指導する。 ②図鑑の後書きのページに、「その図鑑のいいところ」を書き合う。 ②の後に、特によかった図鑑を全体で発表し合う場を設ける。

並行読書（乗り物に関する説明文や図鑑など）

↓

乗り物図鑑展覧会：教室の後ろに全員の作品を並べる。全校児童が自由に見られるようにする。

8 本時のねらい

「よみとりカード」や「しつもんタイム」等を通して、クレーン車の作りと仕事に関する表現を本文から抜き出し、クレーン車の役割や各部の様子や働きを読み取ることができる。

9 本時の展開（4／14）

過程	主な学習活動	指導・援助
つかむ	① 前時の学習を振り返る。 ・トラックの仕事と作りについて確かめる。 ② 挿絵を見て、気付いたことを発表する。 ・クレーン車だ。 ・長い腕が付いているよ。 ③ 本時の課題を確認する。 課題：クレーン車の「しごと」と「つくり」をよみとり、カードをつくろう。 ④ クレーン車の説明の部分を音読する。	① 前回学習したトラックの教材文を提示し、文章の構成を確かめる。 ② 教科書の挿絵の拡大版を黒板に提示する。 ③ 前回のトラックの学習と同じ形式の「よみとりカード」を使うことを説明する。 ④ 一斉音読をすることで、本時の学習場面を確認させる。
考える	⑤ 教科書の「仕事を書かれている部分」を線で囲み、全体で確認した後、その内容を交流する。 Aさん：おもいものをつりあげるしごとをしています。 ⑥ 教科書の「作りが書かれている部分」に線を引き、全体で確認した後、その内容を交流する。 Bさん：じょうぶなうでが、のびたりうごいたりするようにつくってあります。 Cさん：車たいがかたむかないように、しっかりしたあしがついています。 ⑦ 線で囲んだ部分や傍線部を参考にして、本文を「よみとりカード」に視写する。	⑤ 「～しています。」という文末表現を確認する。 ⑤ 「おもいもの」「つりあげる」とはどんなことを話し合う。 ⑥ 「～つくってあります。」等の文末表現を確認する。 ⑥ 「丈夫な腕」や「しっかりした足」が付いている理由、「伸びたり動いたり」する様子について、半具体物を使ったり、動作化をしたりして、体験的に理解させる。 ⑦ 要支援児には、あらかじめ本文を記入してある「よみとりカード」を渡し、視写させる。
広げる・深める	⑧ ペアで「しごと」と「つくり」について、問題を出して、答え合う。（「しつもんタイム」） ＜「しつもんタイム」での対話例＞ Aさん：乗り物の名前は何ですか。 → Bさん：クレーン車です。 Aさん：どんな仕事をしていますか。 → Bさん：重い物をつり上げる仕事をしています。 Aさん：そのために、どんな作りになっていますか。 → Bさん：丈夫な腕が伸びたり動いたりするように作ってあります。車体が傾かないように、しっかりとした足が付いています。 Aさん：その作りだと、どんないいことがありますか。 → Bさん：重い物を簡単に持ち上げて動かせます。重い物をつり上げても倒れません。（例） ⑨ 代表ペアが発表し、全員で内容を確認する。	⑧ 「しつもんタイム」の最初に、自分の「よみとりカード」を相手に見せながら、音読するように指示する。こうすることで、耳だけでなく目でも間違いを見つけやすくなるからである。聞き手は、「よみとりカード」を見ながら聞き、間違いがあったら相手に教える。 ⑧ 「しつもんタイム」での質問の文は、教室側面に掲示し、いつでも確認できるようにする。 ⑨ 自分たちの話した内容と比べながら聞くように助言する。
まとめる	⑩ クレーン車の説明の部分を役割音読する。 ⑪ 自己評価をする。 ⑫ 次時の学習の見通しをもつ。	⑩ 仕事と作りの部分を、班や列で分担して音読する。 ⑪ ◎○△で評価した後、挙手させて確認する。